

【道徳講座】けんかやいじめの問題解決

岐阜大学大学院准教授 柳沼良太

学校では、集団の中や友達との間でけんかやいじめなどの問題が起こることがあります。このような時、どうすればよいでしょうか。

まず、何が問題なのかを考えてみましょう。みなさんはどのような学校生活をおくりたいですか。みんながお互いに思いやりをもち、楽しく安心してすごしたいものです。それでは、現実はどうでしょうか。次のようなことはありませんか。

「仲間はずれにする」、「みんなで見捨てる」、「あだ名でよぶ」、「うざい、きもい、死ねなどと悪口をいう」、「たたく」、「ける」、「むりやりプロレスの技をかける」、「もち物をかくす」、「登下校のときに無理に荷物をもたせる」、「携帯電話やパソコンで人の悪口を書く」など。もしこのようなことが起きたら、楽しい学校生活などおくれなくなりそうです。

今はこのような問題がおきてなくても、これからおこるかもしれません。そのために、過去におきた事件やほかの学校でおきた事件について考えてみることも大切です。

次に、おきている問題についてくわしく調べてみましょう。そのさい、「いつ」「どこで」「だれが」「だれに」「なにを」「どうしたか」をはっきりさせます。

たとえば、休み時間に教室でAさんとBさんが戸口でぶつかってしまったとします。はじめは、たがいに悪口をいい合うだけでしたが、そのあとBたちはグループからAを追い出して、Aとは誰も口をきかなくなりました。それから、Aをたたいたり、もち物をかくしたりするところがありました。Aはみんなからひどいことをされても、気にしていないようで、ときどき笑っていることさえありました。

ここでは何が問題になっているのでしょうか。休み時間にクラスでAを仲間はずれにして、悪口をいったり、たたいたり、物をかくしたりしていることが問題です。もし自分がそんなことをされたら、どんな気持ちになるでしょうか。自分には決してされたくはないことでしょうか。みんながそのようなことをしたら、クラスはどうなるでしょうか。お互いに悪口をいったり、暴力をふるったりするクラスでは、安心して楽しい学校生活をすごすことなどできなくなってしまうと思います。

こうした問題がおきたら、たしかな事実を知るためにしっかり情報を集める必要があります。いやな思いをしている被害者、まわりで見ている傍観者、いやな思いをさせている加害者とされる人たちから直接、個別に話をきいてみましょう。アンケートで調査することもできます。

先ほどの話では、被害者はAです。Aに気持ちを引きいてみると、「つらくていやで、もう学校に行きたくなくなった」、「こわくて誰にもいえなかった」といいます。

傍観者の子たちにきいてみると、「Aだけが仲間はずれにされていて、いやな思いをしていた」、「止めたかったけれど、こんどは自分がやられるかもしれないから、何もしなかった」、「Aはだいじょうぶだと笑っていた」といいます。

加害者のBたちに聞いてみると、「ただ遊んでいただけだよ」、「はじめは相手もわるかった」、「いやがるのがおもしろかった」、「Aはいやだなんて言っていない」、「あの子も楽しんでいたら」といっています。

このようにそれぞれの立場では考えが違っています。加害者の子たちは、被害者の子が「いやだ」といっていない」とか「楽しんでいた」といいますが、本当のことを言えなかっただけかもしれません。顔では笑っていても、心では泣いていることがあります。

それでは、こうした問題をどうすれば解決できるでしょうか。みんなでアイデアをできるだけたくさん考えましょう。みんなで話しながらアイデアを出し合うこともできますし、小さな紙に書いて出し合うこともできます。

そのアイデアは、本当に目の前の問題を解決できるかよく考えましょう。同じ問題が二度と起きないようにするために、どうすればよいでしょうか。たくさんの解決策の中からできそうにないことは外し、できそうで効果のありそうなものを残します。このとき、人権（人間が人間として当然にもっている権利）について配慮し、被害者の立場をもっとも尊重します。それから、ただ問題を起こした子（加害者）を責めるだけでもいけません。

一人ひとりにできることは何かを考えてみましょう。

友だちのことやいじめで苦しい思いをしている被害者の子は、どうすればよいでしょうか。一人で悩まずに、勇気をもって友だち、担任の先生、お父さんやお母さんなどおうちの人、だれか自分が話しやすい人に相談してみましょう。スクールカウンセラーや、保健室の先生、心の相談室の先生もいます。いやなことをされたら、「いやだ」と相手にしっかりと伝える勇気をもつことも大切です。

だれかにいやな思いをさせている加害者の子は、どうしたらよいでしょうか。まず、相手の気持ちをよく考えることです。自分がそうされたらどんな気持ちになるか想像してみよう。もし、知らず知らずのうちに相手のいやがることをしていたら、すぐにやめて、心からあやまりましょう。

まわりで見ている傍観者の子たちは、どうすればよいでしょうか。自分はいじめていなくて

も、困っている子を見ても知らないふりをするのは、いじめをしているのと同じです。みんなの力と勇気をあつめて、人のいやがることは止めましょう。いけないことを「いけない」といっしょにいきましょう。一人ではできないことでも、クラスのみんなや学校の人々と協力すれば、きっとできます。

こうして考えた解決策をじっさいにみんなでやってみましょう。もしうまくいかないことが起きたら、そのたびにみんなでまた話し合しましょう。

最後に、問題がきちんと解決できたかをチェックしましょう。また同じ問題がおきていないでしょうか。新たな問題はおきていないでしょうか。これからもお互いに思いやり、見守り、情報をもちより、助け合い、安心して信頼できる学校をいっしょに作っていきましょう。

（参考文献）

柳沼良太 『問題解決型の道徳授業』、明治図書、2006年。

武田さち子 『子どもとまなぶいじめ・暴力克服プログラム』、合同出版、2009年。

岐阜県可児市いじめ防止専門委員会のリーフレット、2012年。